

## 第4回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議録

- 1 会議の名称 第4回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 開催日時 平成28年2月2日(火)午前10時～午前11時50分
- 3 開催場所 本庁舎前議会臨時庁舎 2階 全員協議会室
- 4 出席した者の氏名

### (1)水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員

相川達也(代理), 赤津一徳, 伊藤充朗, 大蔵勇人, 大関茂, 小田部卓, 加藤高蔵, 川上美智子, 佐川泰弘, 清水博, 清水昌幸, 須田浩和, 田山知賀子, 出井滋信, 任田正史, 袴塚孝雄, 原毅(代理), 保立武憲, 三上靖彦, 向山路一(代理), 村中均, 八木岡努, 和田祐之介, 渡辺政明

### (2)執行機関

三宅正人, 長谷川昌人, 三宅陽子, 大関利明, 堀江博之, 飛田尚亨, 板橋佳広

## 5 議題及び公開・非公開の別

- (1) 意見公募手続の結果について(公開)
- (2) 水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について(公開)
- (3) その他(公開)

## 6 非公開の理由 適用なし

## 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 1人

## 8 会議資料の名称

資料 ① 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員名簿

資料 ② 水戸市人口ビジョン(案)及び水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)の意見公募手続の結果について

参考資料① 水戸市人口ビジョン(案)

参考資料② 水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)

## 9 発言の内容

【執行機関】おはようございます。

定刻になりましたので、ただいまから、第4回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催させていただきます。

本日は、御多用の折にもかかわらずお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

なお、お手元に配付させていただいておりますが、本日は、水戸市におきましてシェイクアウト訓練を実施いたします。午前11時5分に放送が流れますので、その場でできる防災訓練として、会議中の場合は、自席におきまして机の下にお入りいただき、1分間、静止していただければと存じます。放送が入りましたら、改めて御案内をさせていただきますので、御協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、座長に議事の進行をお願いいたします。

\_\_\_\_座長、よろしくお願いいたします。

【座長】皆さん、おはようございます。

お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

前回まで、本当に多彩なメンバーでいろいろな意見が出されまして、それを生かして最終案がつくられております。

さらに、その最終案が、パブリックコメントを経て、大きな変更はないということで、本日、お手元に配られているかと思えます。

本日のこの会議の課題といたしまして、一番大きなところは、皆様から、人口ビジョンや総合戦略に対する最終的なコメント、特に、これを推進していくに当たっての意見や要望をお出しいただくということになっております。

限られた時間ではございますし、恐らく、シェイクアウト訓練も、どなたかの発言の時に入ってくることになると思いますが、よろしくお願いいたします。

議事に先立ちまして、本日、\_\_\_\_委員、\_\_\_\_委員、\_\_\_\_委員、\_\_\_\_委員が所用のため欠席との連絡を受けておりますので、御報告申し上げます。

また、本日の会議録の署名人につきましては、\_\_\_\_委員と\_\_\_\_委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

さらに、本日、会議の傍聴を希望される方が1名お見えになっております。本会議は、原則公開としておりますので、入室いただきたいと思います。御了承いただきたいと思います。

(傍聴人入室)

【座長】 それでは、議事に入ってまいります。

お手元に議事次第も配付されているかと思いますが、本日の議題は、大きく2つございますが、(1)の水戸市人口ビジョン(案)及び水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)の意見公募手続の結果についてでございます。

事務局から説明をお願いいたします。

(総合戦略の前回からの変更点とあわせ会議資料②に基づき説明)

【座長】 意見公募手続、いわゆるパブリックコメントを12月21日から1月22日まで実施して、お二人の方から4件の意見があったということで、市としての考え方の回答といえますか、その説明かと思えます。

この意見公募の手続、あるいは、結果について、私どもがということではないと思いますが、何か御意見、御質問ございますでしょうか。

それでは、ないようですが、この意見公募の手続の結果については、市としてこのような対応をするということによろしいでしょうか。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】 この意見の一番最初の部分ですが、これは市としてはどのように解釈されているのでしょうか。例えば、今、予定されているこのプログラムも含めて、市や特定の団体に税金を投入し、公共機関や特定の団体が自ら手を広げて実施することはやめてほしいという、これについて回答は書いてあるのですが、この意見の内容が把握できないので、この点について、どのような解釈をされているのかお聞きしたいと思います。

【執行機関】 こちらの意見につきましては、総合戦略に掲げております様々な施策について、市が中心になって進めたり、特定の団体にも関わっていただくことによって、その他の民間企業の自主的な活動や取組を圧迫してしまうのではないかとということをお考えになっての御意見でした。

ですので、そういうことではなく、水戸市として、様々な既存の企業、これから起業する方も含めて、競争力や経営力等の力をつけていただきたい、そういうことを関係団体と連携しながら、応援していくということで回答をさせていただいております。

【\_\_\_\_委員】 このパブリックコメントの投稿者に対して、その意思内容を確認するという事はもちろんしないのでしょうかけれども、例えば、事業であれば、逆に、水戸市の4大プロジェクトとかを進めていく中で、用地取得であるとか、それに対する取組の責任、税金の投入であるとか、こういうことも含めて、水戸市として受け止めたということによろしいでしょうか。

【執行機関】あくまでも、総合戦略については、行政も力添えをしながら、民間企業等と相互に発展していくという考え方で、水戸市が民間企業を圧迫するようなものではないということでございます。

【\_\_\_\_委員】では、水戸市の事業、例えば、特定の今予定される事業を予測しているのではなくて、これからの総合戦略の事業の中で、全般的に、民を圧迫するようなことについてはしませんよということですね。この方の場合には、何か特定して言っているのか分からなかったのですが、水戸市がそういう考えであれば結構です。

【座長】私が口を挟むことではないかもしれませんが、全体として小さな政府みたいなことが言われている中で、今回、この国の枠組み自体、かなり行政が出てきてみたいところが1つはあって、そこでの整合性というのは市としてはどうしようもないところかなとは思いますが。実際、この総合戦略の中で、事業主体として、事業者というような言葉が各所に出てくるわけですが、それがどういうところなのかははっきりしないとか、あるいはお金の裏付けがどうなのかということについては、この戦略には触れていないので、場合によっては既存の団体にたくさんのお金が新たに投入されるということになるのではないかなという懸念が出ているのではないかなと思います。

その点、もう少し細かく説明をするつもりがあれば入れても良いかなとは個人的には思います。もし簡略に回答するとすれば、こういう感じかなというところかと思います。

この話は、この後、皆さんから意見を伺う進め方のところと大いに関わるところかと思っておりますので、また二巡目のところでぜひそういう点もお話しただければと思います。

それでは、今のことも関わるところですが、次の総合戦略(案)についてという議題に行きたいと思っております。

前回も、この会議の進め方について最後にお話をいたしました。肝要なこの戦略自体をどうかという御意見については、主に前回までお話しただいて、それを踏まえて最終案を事務局の方で作成をするということがまずございます。

本日は、それを踏まえて出てきた最終案、それから、パブリックコメントの手続も経たしたところでございます。最終的に御意見を伺う場としては、策定の段階では本日が事実上最後となるわけです。基本的に皆さんの意見を踏まえたものをここに提示をしているということでございますので、この総合戦略(案)、それから、人口ビジョン(案)に対して、これをこれからどう推進をしていくのかというような観点での御意見、御要望を頂きたいと思っております。

実際にこのプランを動かしていくに当たってどうしたらいいかということについて、ここで、今日頂いた御意見を取りまとめまして、次回の会議において水戸市長に提出していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

本日は時間の限りがござひますので、事務局とのやり取りというよりは、順を追って、ぜひ皆様に一言は発言をしていただきたいと思ひているところですが、手の挙がる順が良いか、1人ずついくのが良いかというところを迷っておりますが、まず、挙手でお願ひをしまして、初めに手が挙がらなかった委員さんにつきましても、1回は発言をお願ひできればと思ひます。

それでは、まず、どなたかからでも、御意見がありましたらお願ひいたします。

\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_委員】何回かお休みをしている間にこんなに立派に出来上がっていて、びっくりいたしました。

特に、今回、人口ビジョンをしっかりとつくっていただいて、私が強く感じますのは、水戸市が、県の人口ビジョンと比べますと、県では若い世代が東京に行ったまま帰ってこないというのが顕著に出ておりますが、これを見せていただくと、かなりしっかりと戻ってきているということで、水戸市はまだまだ伸びしろがあるなと思ひて見せていただいたところです。

今回、総合戦略も大変立派に出来上がってしまひて、これらを実際、いろいろな形で実施していくことで、県都水戸市がますます重要な存在になっていくのではないかなと思ひております。

特に、一番最後の39ページですが、水戸だけにとどまらず、39ページ、40ページにかけまして、他の都市、特に県外を含めた広域連携をいろいろやっぺいこうとしているところが重要かと思ひております。

茨城県での水戸市の存在をますますアピールしていっぺいほしいなと思ひております。

【座長】人口ビジョンで、茨城県は一般と比べると、水戸市の場合、東京へ行った人が数年で戻ってきているのだということが良く分かるということと、特に、総合戦略では、広域連携というような点が入っぺいいて、そこをどう進めていくかという課題があるということかと思ひます。

\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_委員】7ページの創造的な活動への支援の一番下に、「水戸芸術館を中心としたまちのにぎわいづくりの推進」とありますが、後ろの方の12ページにも、細かく、千波湖や弘道館、偕楽園や水戸城跡等とせっかく入っぺいっているので、ここは芸術館を中心としたまちのにぎわいに限定しないで、日本遺産、あ

るいは千波湖など、自然を核とした魅力あるというのを付け加えた方がもっと奥行が出てくるのかなというふうに感じました。それなので、水戸芸術館を中心としたまちなぎわいと、弘道館、偕楽園など日本遺産、あるいは千波湖など自然を生かした魅力あるまちづくりの推進とか、そういうのを入れた方がよろしいのではないかなと思いました。

【座長】 前回の議論でも、特に、若い人たちの文化・芸術活動等をリーディングプログラムにも入れた方が良いのではないかという意見があって、この部分が入ったわけですが、芸術館というのは入っているけれども、自然とか日本遺産とかという要素をもう少し入れても良いのではないかというようなことかと思えます。

その辺の整合性については、実施の中でもどう絡めていくのかというのは当然問題になると思いますので、引き続きの検討ということになっていくのかなとは思えます。どちらも全体としては入っているけれどもというような話かなと思えます。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】 どう推進していくべきかということでございますが、今までの会議の中でもお話ししたところですが、全国的に見れば、水戸市は水戸という見方はされずに、もっと水戸広域都市圏というふうに見るわけですから、どのように広域が連携して全体として勝つかということが大事だと思います。

例えば、企業誘致の場面でも、何が何でも水戸がそれを取ろうとしても、実は茨城町に譲れば良いのという場面もあると思うのです。結局、広域的に見たらどちらでも良くて、地域で勝てば良いわけです。

また、イベントの誘致についても同じようなことが言えると思います。何が何でも千波湖でなくても、ひたち海浜公園を紹介しても良いのではないかと思います。これはひたちなか市から見たら、それはどうせなら水戸でやったらというやり取りもあっていいような気がします。

また、それぞれの市町村が自主的に開催する事業についても、その開催日をダブらせて、これが戦うことになって消耗戦になるのだったら日にちをずらすべきだし、ダブらせることで相乗効果が発揮できるのだったら同じ日に開催するというのもあると思うのです。

そのような広域都市圏を一つのチームとして見た時に、どうやったらチーム全体で勝てるかという視点を、特に、広域行政の方々に大切に思っていたら、もっと効果的な事業ができるのではないかなと思っております。

【座長】 実際にいろいろなことをやっていくに当たっては、狭い意味での水戸ではなくて、広域的な観点で、イベント等についても、どこでやるのかとか日程等を考えることが肝要ではないかというお話かと思えます。つまり、

周辺を含めてこういった戦略を実現させていくべきだということで、この辺一体が勝ち組になればということかと思えます。

\_\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_\_委員】座長から、推進の在り方についてというお話があったので、それに関連して一言申し上げたいと思いますが、9ページのところに推進体制と進行管理というところがあって、さらっと全体観として書かれているかと思えます。

後ろにあるような具体的な施策は、改めて読んでも、どれも本当に大切なことで、改めて妥当だと思うわけですが、ただ、これを進めていくのはこれからであって、具体的にどういうやり方で、どういう手法を使ってやっていくかというところは、これからの各論で、これからの話になっていくのだらうと思えます。

それを進める中で、結果としてどういう効果があったかというところがPDCAのCheckのところになってきて、それを踏まえて、またプランニングしていくということだと思うので、PDCAサイクルをうまく回していくというところがこれから問われるということだと思います。特に、このCheckのところ、いろいろやってみて、その効果が上がったのか、上がっていないのかというところを、どういうタイミングでどういうふうにしてCheckして次のプロセスに入るかというところを、今後ぜひ明確にしていっていただくことが必要かなと思えます。

人口を見ても、今後、しばらく、減少に入るというのは見えているところですので、言ってみれば、歴史的な大きな変化の中で、活力を維持していくというのは、政策の具体的な手段というか、手法のところ、よほど効果的なものを考えていかないと、なかなか難しいところもあると思えます。そういう意味では、着実に効果が出るやり方もあると思うのですが、ちょっと思い切った手段、思い切った手法も入れてみて、その結果を見て、もしうまくいかないようだったら、もう一度、違うやり方をやるというような、ある程度チャレンジングな取組もぜひやっていただいて、うまくPDCAを回して、効果が上がる、結果が手段を正当化するというところもあると思うので、細かいやり方のところを工夫しながらやっていただくということが大事かなと感じております。

【座長】戦略の9ページにあるような、進行管理のところかと思えます。効果の測定を生かしてCheck, Actionということだけれども、実施のところでも思い切った手法というのをやれるところは考えて、思い切ったことをやった方がいいのではないかということで、測定からCheckという流れの話と、実施のDoのところでの手法のことと、2つの点の御指摘だったかと思えます。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】私も\_\_\_\_委員と同じように欠席をしまして、今日、このようなすばらしい戦略の案を見させていただきまして、感じたことと、私としてはこういうような進め方も大事なのかなというようなことを意見として述べさせていただきたいと思います。

これは実施が大切だと思うのです。1つの考え方として、これは水戸市だけの問題ではなくて、他市町村も同じような、こういう戦略を練っているいろいろな仕掛けをしてきているという中で、今大事なことは、他の市町村にない水戸市の良さというものを、どれもが平均的に取り組んでいくということも大切なわけけれども、特徴を持ったものを育てたり、磨いていくということが他市との差別化という意味では必要なのかなと思いました。

一番最後の方にコミュニティのことも載っていますが、例えば、水戸市のコミュニティというのは、全国でも類のないように1小学校区に1市民センターが配置されています。こういうものをどのように個性として磨いていくのか、また、他市にない文化、または芸術遺産などをどう磨いて育てていくかという他市との差別化を、先ほどのお話にもあったように、どれを具体的に、どれを柱にというようなことも私は考えていくべきではないのかなと思います。例えば、日本遺産に認定されたならば、そういうものをどんな形でこの戦略の中で生かしていくのかというようなことが、これからこれを具体化していく上においては大切な要因ではないかと感じております。

様々な施策を見ましても、それ1つ1つがみんな大切なことであって、それはあくまでも市民レベルで基本的な生活を保障できた上での新しい取組だと思っておりますので、そういう大事なシステムを、更に、まちづくり、人づくりに使っていくべきなのかなと思っております。

他市との競合という部分では、今、水戸市が、きちんとした個性化、差別化を明確に打ち出していくということが水戸市の良さを発信できる、魅力を発信できる1つの方法だと思っておりますので、この実践の中において、ぜひそういうこともお考えいただければと思います。

【座長】差別化、個性化を図るためにも、他にない特徴を見出し、生かして、それを柱に据えるべきであるという御意見かと思えます。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】これまで、皆さんの意見を集約してできてきたという結果の問題ですから、この内容に関しては、当然、このまま承認されるものと私も思っていますが、先ほど\_\_\_\_委員からもあったように、これからだと思うのです。

質問ではなくて意見になってしまいますが、例えば、何が問題でこれが起こったかという、人口減少問題だと思っております。これまでの社会は



拡大社会だったので、計画行政は、どんどん供給を増やしていけば、需要はそれに追いついてきて、その目標を達成するという循環がなされてきたというのがこれまでの社会でした。しかしながら、今度は縮小社会になっているわけですから、そここのところで供給を増やし続けたところで需要が追いついてこない可能性も当然出てくるということでもあります。そう考えると、例えば、P D C AのサイクルのPlanを立てますよね。こういうふうにやりたい。そしてやってみる。駄目だった。そうすると、次どうしたらここに到達するかというのがこれまでの行政の考え方ではありますが、その中には、ここに到達するためには、莫大な資金、異常な努力をしなければ到達しないような可能性も出てくるわけです。そうすると、供給と需要ということでは、私たちの行政はこれまで計画行政をしてきたわけでありまますから、供給ばかりを先に、目標ばかりを極めてきたわけでありまますから、今度は的確な需要というものを把握して、その需要に対して、計画が時には要らないものだったり、時には達成できないものであることがあります。それに対して、何とか達成しようとして数字を合わせていこうというものよりも、P D C AというPlanの中でも、そこに撤退するような基準を自分たちの中に設けてはいかがでしょうか。私たち議会でもそうですが、何でそれに達していないのだ、やっていないのかということをよく言いますが、これからは一貫性というのは、ほとんど重要視されていないと思うのです。この計画を実施していく中で、ここまで来て、駄目だったらこれは撤退だ、そういう感覚が縮小社会の中では必要だと思います。当然、ぐるぐる回して頑張るって良いものをつくっていくのだけれども、その一方で、需要がないものに対する供給は増やし続けられないような考え方も持って、これまでどおり回すのではなくて、本当に大切なものに集中的に力を注いでいくべきだと思います。これからやることはそういうことなのかなと私は思っていますが、これまでの行政をやっていた方は恐れると思います。何で駄目だったのだ、失敗だったのではないかとということをおそれずに、需要に対して真摯に見つめて、これからこの計画を推進していただければと思っていますので、お願いいたします。

【座長】非常に大きな目標が立っているわけですから、そこを、ある意味、絶対視して、つじつまを合わせるために動くということではなくて、需要に合った行政からの供給というのを、リアルにその都度計って動いていけという御指摘かと思えます。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】\_\_\_\_委員がおっしゃったように、ここまでまとまってきて、この内容に関しましては、このまま進めていってよろしいのではないかなとは思いますが、パブリックコメントでお二人しか意見がなかったというのは非

常に寂しくて、市民の参加意識がもう少しないと、多分、PDCAはうまく回っていかないのではないかなと思います。

この中の全部ではないにしても、市民の方それぞれの問題意識に引かれることが必ずあると思いますので、そこだけでもいいので、関心を持って、この内容がどう進んでいくのか、果たしてそれが自分たちの暮らしやすさにつながっていくものなのかどうかというところを、市民の目での問題意識とそれに対しての監視というものがないと、市役所だけの文書に終わってしまうのではと危惧されます。

方法はいくつかあるのだとは思いますが、できるだけ市民の方に、この内容を分かっていたいて、問題意識の中に引っかけていただくような取組も必要ではないかと思います。

【座長】パブコメの結果を見ても、どこまで浸透しているのかということもあるので、恐らく、テーマとしては、どなたも必ずどこか関心があるとか、関係があるようなところがあるはずなので、市民の参加・参画をどうやっていくのかというところが、もう一段、必要なのではないかというお話かと思います。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】今、\_\_\_\_委員にお話しいただいたことをそのまま感じておりまして、パブリックコメントが2件というのは、少ないというよりも、なかなか伝えるのが難しいなということを感じました。

ただ、今回、この戦略自体、水戸市で若い世代を応援するというのを前面に出したのは、それなりにかなり絞り込んで、ここでも議論があった結果だと思っておりますので、その絞り込んだことが若い世代に伝わる形にするのにどうするのかということが、これからの推進においての一番の課題かなと思っています。

特に、今回、若い世代、若者を大事にして主役にしたいというメッセージを若い人たちに確実に伝わるようにし、伝わるだけではなくて、そのことで若い方々が具体的にアクションを起こせるようなシナリオができていないと、伝わっても、若い方々が実際に行動を起こさないという話になると思います。ですので、実際にこれからこれを推進するのに当たって、若い方々が推進の主役になれる形をつくる工夫が必要かと思っております。

乱暴な話を申し上げますと、この中で若い世代というふうにくくってまいりますのが18歳から40歳前後というふうにおっしゃっているわけですから、この事業の具体化、具体施策の推進のトップは、恐らく18歳から40歳の方が就かれるのが妥当だと思いますし、あるいは、実際に進めるのに当たって、いろいろな方を公募される時に、こういった方々をターゲットに、皆さんと一緒にやる仕事ですといったことを具体の施策の中に織り込んで

いただければと思います。

さらに、水戸市に乱暴を申し上げると、実際にこれを進める行政のトップの方も、恐らく先のことを共有できる 18 歳から 40 歳という方々が集まってやられるということが重要なと感じました。

そういう意味では、本来ですと、この有識者会議もそういった方々が中心になれるのが筋かなというふうに思います。

【座長】特に、この戦略については、若い世代を意識してつくってきているわけですから、そこに伝えるということと、それだけではなくて、推進に当たっても中核として、特に行政の中でもというお話だったかと思います。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】若い世代，18 歳から 40 歳，そこが本当に中心になってこれらを推進していくと大変すばらしいと思います。

それから、今後 18 歳になっていくもう少し下の世代の方にも、水戸がこういう方向に動こうとしているということを伝えていくことが重要なと思います。

今、水戸の小・中学校の教育の中では、郷土をしっかりと理解しようというのがありますから、ぜひ小学生，中学生にも、水戸がこんな方向に向かっているということを学校教育の中で取り上げていただけると良いかなと思います。

【座長】若い世代を更に次の若い世代にもというお話でした。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】先ほど少しコミュニティの話に触れたのですが、これはまち・ひと・しごとですよ。今、\_\_\_\_委員から教育、いわゆる「ひと」の話がありました。ここにも少し触れているのですが、町内会とかそういう水戸市民の地域の土壌ですよ。そういうまちに対しての誇りや愛する心という部分を育成するため、また、醸成するためにコミュニティの重要性をずっと伝えてきたのですが、加入率がどんどん下がっています。今から 15 年ぐらい前は加入率が 85% ぐらいあったのですが、今はきっと 65% ぐらいまで下がっています。今、水戸市住みよいまちづくり推進協議会でも、一生懸命、自分たちのまちを、まず基本的なベースのまちを、しっかりと土壌を良くしようということで頑張っています。ひとこそ力なりということ言えば、せっかくすばらしいコミュニティのシステムや組織を持っているので、学校教育とも連携をして、ひとに対してもう少し水戸の独自の取組をしていくことがベースだと思うのです。そういうものがこの中に少しは入っていたのでいいのですが、もう少し考えていかないと、こういう立派な施策を提供したりこれを実践していても、意外と一部の理解ある人だけの問題になってしまうような気がしておりますので、この施策を通して、そうい

う基盤の人づくりの方にもぜひ力を入れていただきたいなと思います。

【座長】自治会加入率の担い手をつくるということも前提として考える必要があるだろうという御指摘かと思います。

\_\_\_\_\_さん、どうぞ。

【\_\_\_\_\_委員（代理・\_\_\_\_\_）】\_\_\_\_\_の代理で参りました、\_\_\_\_\_の\_\_\_\_\_と申します。

前回は参加をさせていただき、今回もリーディングプログラムにおいて、分かりやすい基本的な方向性を示されたということで、事務局の方々の御尽力に敬意を表したいと思っております。

本当に分かりやすい表現になったなと思っておりますし、重点的取組の1つ目に、雇用の創出ということで掲げたところがございまして、県内はもちろん、水戸にもとてもすばらしい企業がたくさんございますから、そういったところに対する支援をまずは進めていただきたいと思います。そして、先ほど\_\_\_\_\_委員がおっしゃったとおり、これからの方々に水戸で働きたいといった方向に教育をしていくことが重要だと思います。そうしたところが、人の定住化、更には人口も増えていくといったところにつながるのではないかと思いますので、企業のすばらしいところをぜひ今まで以上に進めていく、教えていくとしたところが良いのではないかなと思えますし、郷土愛にもつながるのではないかなと思っておりますので、そういったところを含めて進めていただきたいなと思います。

【座長】地域企業のことなども教育の場面で触れるというようなことも重要ではないかというお話かと思います。

\_\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_\_委員】今回の有識者会議に女性が少なかったのが率直にちょっと残念だと思いました。同等とは言いませんが、もっともっと欲しかったなというのがまず1つです。

それから、このまち・ひと・しごと創生というのは、全国の自治体が足並みをそろえた形でそれぞれの自治体の個性を生かしながらスタートしたと思います。これは皆様からの御意見で、水戸市が若い世代というところにポイントを置いてやるということですので、この5年間はとにかくここに力を入れるということについては同意させていただきます。

ただ、私は、水戸市は魁のまちと言われるので、他の自治体よりもリードするような県都水戸としての方向性というのは、必要かなという思いがありました。

そこで、多様性ということで、いわゆるダイバーシティのまちづくりというのはいろいろ論議があると思うのですが、水戸らしく全国に先駆けて、それぞれの女性、男性、若者、高齢者、障害者も含めて、そして、セクシャルマイノリティも含めて、多様性を認め合うまちというところに人口増

が図れるのではないかという信念は持っております。

例えば、新たな人の流れを生み出すまちということもとても大事なことで、事業を見ますと、新たな人が水戸へ来る時にはすごく住宅の供給のところが多くて、雇用創出のところではもちろん就労支援はそこに入ると思うのですが、ここもきちんと、新たな人が水戸へ居住して、そして、生きていくということは仕事がないと駄目ですので、先進的な自治体ですと、農業県では農業者を農業の人が育てていくというようなこともあったりして、ここはこれからの Do のところでそのような展開をしていただければなと思います。

そして、これからの女性は、仕事も家庭も両面やっています。これは自分の自己実現のためではなくて、社会保障の部分でも女性の役割はとても重要なのです。そのために、水戸市としては、「教育のまち水戸」で子育てをしていけば、子どもが本当によく教育されて、女性は仕事も家庭も両立ができる。そして、男性もそれを支援していくというような特色のある、「子育て日本一のまち」というような流れをこれからこのところで作っていただければなと思います。

とりあえずこれは今年度を含めて5年ですから、まだこれからが大事かと思えますから、Plan, Do, Check, Action というところで、この流れについて、とにかく多様性のあるまちという方向性に行っていただければなということが私の全体の感想でございます。

【座長】特に、多様性という辺りを意識して、他をリードできるようなところで、今、多方面についての御意見を伺えたと思えます。

\_\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_\_委員】全体的には、皆様に論議をしていただいて、第6次総合計画の中で水戸市は動いていますが、それに対するその中間点に中核都市ということも出てきます。そういう面では、基本的には骨格ができて、優先順位は明確になったということで、その中で新たに見直しの中で施策として入れるもの、それから、今までの事業に対しての厚みを加えるもの、こういうものをきちんと選別しながら、優先順位をたがわずに事業執行していただければ有り難いと思っています。

先ほどパブリックコメントの話が出たのですが、水戸市の場合には、パブリックコメントの意見というのは、ほとんどがこういう数ぐらいしか出てこないという現状があります。法律で決まった原則ですから、これはやらざるを得ないのですが、市民の方の中にパブリックコメントという意識はほとんどないと僕は思っています。そういう面では、市民アンケートとして、有権者から無作為で抽出して、1万人アンケートであるとか、各個人の施策のアンケートを取ると75%から80%ぐらいの回答が返ってくる

のです。そう考えると、市民の中に行政に意見を言っていこうという意識はあるのだけれども、パブリックコメントという意味がよく分かっていないのだと思います。そういう面では、結果として、意見が10例以下ということ自体は常日頃から私たちも理解していることなので、仕方がないことなのかなとは思っています。これからパブリックコメントの考え方というか、市民の方に対してのパブリックコメントに対する意識醸成みたいなものを図っていかないと、これからいくらパブリックコメントをやっても意見というのはほとんど出てこないと思います。こちらからアンケートを強制的に、お答えくださいという形になってこないで市民からの意見を抽出することは難しいのかなと思っています。その考え方も、これからの事業を遂行する上で、意見抽出の考え方についても少し検討していただければ有り難いと思います。

それから、もう御存じのように、茨城県のイメージというのは、都市も含めて全国で47位というイメージなのですが、これについて僕はあまり意識していないのです。1番があれば47番目もあるのだという考え方ですから。

ただ、水戸市が県都であるということの水戸市の行政がいかに活用していくかということが大事であって、水戸市の魅力イコール茨城県の魅力になってくるのだらうと思います。つくばであったり、最近では、食のことに對して言えば、江戸崎のかぼちゃや鹿嶋のメロン等という果物のイメージもアップしているのですが、都市のイメージというのは、茨城県イコール水戸市のイメージという部分があるので、基本的には水戸市のイメージを高めていくことが大事だと思います。

先ほど\_\_\_\_委員がおっしゃった、あらゆる属性を水戸市は受け入れていますよというようなことや、\_\_\_\_委員がおっしゃった、町内会の加入率が65%となっている状況においても、加入したくない、それから、子供会にも参画したくないという方も受け入れざるを得ないということでのまちづくりをしていかないと人口というのは増えないのです。

そういう面では、その部分をきちんと整理をしながら、コミュニティも含めたところの整合性を図っていくということがこれから大事なかなと思っています。

ただ、トータル的に、「まち・ひと・しごと」といっても、まちが人のためにどういう育て方をしてくれるのかとか、受入れをしてくれるのかとか、仕事はその人個人のためにどういう利益やメリットを与えられるのかというのは、ひとが幸せになるということが骨格です。そういう面では、これまで皆様に論議していただいたこういう中で、1つ1つの政策がこれから出てくるでしょうから、我々議員の場合には、その政策に対してどういう

対応をしていくのか、どういう判断をしていくかということが大事だと思っていますので、これについては、きちんとしたこれからの対応をうまくしていきたいなと思っています。

ただ、もう1つは、先ほど、まちの魅力ということで、\_\_\_\_委員から農業という話もありましたが、今、空き家や空き地という問題がいろいろな行政の足かせになっていますが、空き家を利用して、そこを改善しながら居住体験をしてもらう。こういう全国的な取組もしているということもあって、都市のメリット・デメリットを方向転換して最大限に利用していくということも大事なのではないのかなと思っています。

そういう面では、行政的にこれから皆様に論議をしていただいて、この総合戦略の骨格を作っていただきましたので、第6次総合計画との整合性の中できちんとしたまちづくりを進めていくということを執行部にもお願いし、我々も決意をしているということでもありますので、意見としてというよりも、考え方を述べさせていただきました。

【座長】 県都のイメージが県のイメージにもといるところですので、水戸市というのが、ある意味、リードするということがという観点と、ひとが幸せになるということが一番中核的なポイントに据えるべきだということでした。あるいは、デメリットとされているようなことを生かしてメリットに変えていくみたいなことが必要でしょうというような御指摘だったかと思います。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】 リーディングプログラムのイメージということで、仕事、活動ということで、すばらしい内容のものになったかと思います。

あと、推進体制のところ、私が非常に重要だと思っているのは、9ページにある Plan, Do, Check, Action の、Do のところに強調して、市民、事業者、各種団体等との連携ということで、地域の連携のところを強調されてはいるのですが、他の委員の方々の意見も踏まえると、Check とか Action とか、こういったところにもいろいろな方に関わってもらって、総合戦略はこちらの委員の方を中心に作られたものではあるのですが、PDCAサイクルを回していく上では、様々な地域の方々に関わってもらうというふうにやっていただく方が良いのかなと思います。

(シェイクアウト訓練)

【座長】 御苦労さまでした。

途中になりましたが、\_\_\_\_委員お願いします。

【\_\_\_委員】我々、PDCAのDoを今やった感じではあるのですが、Doのところはたくさんの方に関わっていただくということもあるのですが、Checkのところも、パブリックコメントも、ホームページに出せば意見が集まるかということ、そういうわけではないので、やったことをチェックしてもらおうということで、チェック体制も外に出して行って、シンポジウム等で様々な人の意見を聞きながらこの総合戦略を推進していくと良いのかなと思います。

【座長】途中になって申し訳ございませんでした。

Planをやったわけですが、Doのみならず、Check、次のActionについても市民の方々の参画をとというような御意見でございます。

\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_委員】先ほど、\_\_\_委員や\_\_\_委員が農業のお話に触れたので、自分の分かっている範囲でお話ししたいと思います。水戸の魅力の話や水戸のポテンシャルの話をした中で、全国大会等に行きますと、我々の業界では水戸のイメージはすごく高いのです。今、農協の合併が進んでいまして、水戸農協の中に水戸という名前を消したら、一生の不覚だよということをよく言われるのです。そのぐらい水戸というのは全国的に有名であります。

野菜や果物の話を取りましても、南限、北限がありまして、多くの野菜が採れるということも大きな魅力だと思うのです。

そして、先ほど後継者の話、担い手の話がありましたが、全国から新しく農業を目指そうという若者たちが集まる場所として、茨城県にはすごく多くの方が来ているのです。しかしながら、受け皿がきちんとできているのは県内でもいくつかの市町村だけなのです。

我々もそういうことを始めましょうということではいろいろやっているのですが、その中で言えるのは、今回の基本目標であったり、施策であったり、ほとんどが水戸の強みや長所の部分をきちんと出していると思うのです。そして、この施策を実行することによってまた強みに変わることというのがほとんど書かれていることだと思います。特に、11ページにつきましては、我々の業界分野のことも随分網羅されているのではないかと思います。

ただ、心配なのは、先ほどたくさん意見がありましたが、これをどれくらいPRされているかということだと思います。先ほどのシェイクアウト訓練もそうですが、何人の方がこれに関わって一緒に訓練をやったのかなというのが少し心配になります。先ほど\_\_\_委員も言っていましたが、そういうことを分野ごとの団体であったり、事業所であったり、そういう人たちが強みの部分をきちんとPRしていく結果として、水戸全体の強みとしてそれが伝わっていくのではないかと思います。全部が意見としてでは



ありませんが、それをどうにかしてやっていくということ、それから、我々で言えば小さな子どもさんたちに、食育とかそういうことを通じて魅力を発信していくということを繰り返しやっていくことで、市民が全体で参加してくれるとか、それから、これからの水戸市を考えるというような方向に向いていくのではないかということ、そのPRの方法を、皆さんとともに、どういうことがあるのか、これからもっと考えていきたいなと思います。

【座長】 いろいろな強みとすべきところが盛り込まれているけれども、それをいろいろな人がいかにPRをしていくかというところを強調されたという御意見です。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】 今回、人口ビジョンから総合戦略というようなことで出てきておりまして、今まで地域再生を目指しているというところでよく登場してくるのは大きな自治体のところはあまりないのです。小さい自治体で、人口減少がものすごく激しくて、そして高齢化も非常に進んでいるところはいろいろな活動をしているねと。だけど、非常にポイントが絞られていて、今やらなければならないのはどういうことなのだという事について割と絞りやすく、そんな中で参加して動き出しているというようにところがどちらかというところ紹介されている事例なのだろうと思います。

水戸というのは、確かに大きい都市から比べれば、そんなに大きい都市とは言えないと思いますが、なかなか今現状が本当に厳しく、人口減少が進んで、いろいろなところで困ってきたことも起こっているのですよということを市民目線で理解するのはなかなか難しい環境なのだと思います。

このリーディングプログラムで、まさに若い人と言っているのですが、実施施策の中で見ていくと、子どもの対策から高齢者まで、あるいは、ものづくりから観光、サービス産業といったところまで、言ってみれば、大きい都市だけに、ありとあらゆることを盛り込んだ形で戦略を作らざるを得なかったのだろうと思います。

Plan, Do, Check, Action というようなことを入れていっていますが、本当は市民の中にこういった1つ1つをやろうとしていることが浸透することが大事なのだろうと思います。

大変ボリュームの豊富な、広範囲な課題を展開していくということで、これは計画を読んだら本当にありとあらゆるものが入っているということで、すばらしい戦略なのだというふうには思いますが、これを本当に実現していくとなると、どこが事業主体になっていくのですかということもここには書かれていますが、大変な労力を使いながら、市民に浸透させなが

ら進めていくということなのだろうと思います。

そういった意味では、これからの広報というものをどんなふうにしていくのかということが大変重要であり、難しいのだと思いますので、どうか市民にこの戦略が本当に浸透していくようにしていただきながら、ぜひ成功させていただければと思います。

【座長】水戸の都市規模であるがゆえに、ありとあらゆることが入っているけれども、それがいかに市民に浸透していくか、そこが成否の鍵だというようなお話かと思います。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】ハローワーク水戸では7市町村が管轄にございます。

平成26年度の水戸市の有効求人倍率なのですが、年間を通して1.51倍ということで、かつてなく良い数字なのでございますが、実は、各市町村ごとに見ますとかなり格差が出ております。水戸市は年間を通して1.51倍ということで、分かりやすく言いますと、100人の求職者に対して151人の求人があるという状況なのですが、他の市町村は1倍を超えているところがどこもございません。ですから、ハローワーク水戸は水戸市の求人に頼っているところが多いのです。周辺の市町村も、地元の求人が少ないものですから、水戸市に通勤して仕事をしたいという希望者が多いという実態になっております。

ですから、ハローワークが連携を組むには、どうしても水戸市を抜いては考えられないということです。このプランの中で、地元企業の雇用の促進ということでございますが、今日と明日、水戸市の商工課の職員とハローワークの職員が一緒になって、水戸市内の事業所を10か所ですが回っております。

何をやっているのかと言いますと、正社員の求人開拓と、それから、非正規の社員が非常に多いということで、非正規から正社員への転換。国でキャリアアップ助成金を始めいろいろ助成制度がございます。そういった周知と、皆さん御存じだと思いますが、細かい部分はまだ決まっておりますが、3月から、学卒求人に限ってですが、ハローワークではブラック企業に関しての求人を受理できないというような新制度ができましたので、そういった周知等を今行っております。

それと、今、人手不足が問題でございますが、その中でも保育士の関係です。今日も、みと文化交流プラザで保育士の就職準備セミナーをやっております。対象者は10名から20名ということでやっておりますが、保育士の人手不足ということでNHKが非常に興味を持っておりまして、今、取材に来ているということです。

今日を初め、4日、8日と3日間やります。その後、今度は、ハローワーク水戸で、2月の第2、4土曜日の2日間にわたりまして保育士の就職面接会を行います。今のところ、22保育所が参加予定です。求職者がどのくらい参加するかは、蓋を開けてみないと何とも言えませんが、ほとんどが水戸市内の保育所、それと水戸市の公立の保育所が参加する予定になっております。

そういうことで、水戸市は茨城県内でも待機児童が非常に多く、保育士の人手不足ということで、今、この辺に力を入れております。

先ほど、これから女性の活躍促進ということで、子育てと仕事を両立させて働きたいという女性が増えているということでございますが、そういったことで、水戸市と一緒にいろいろな支援を行っていききたいと思っております。いわゆるP D C Aで言えばDoの部分ですかね。そういうことでいろいろやっていききたいと思っております。

【座長】水戸は比較的有効求人倍率は高いのだけれども、\_\_\_\_\_としても、人も連携をしながら、正規職の開拓、あるいは、非正規の正規化へというようなところに力を入れていきたい。あるいは保育士の雇用もというお話でございました。

\_\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_\_委員】水戸が市政を敷いたのは非常に早い時期でした。横浜と同じ頃だと聞いております。横浜が370万人くらいの人口がいるのですが、水戸は27万人くらいです。また、北関東で言いましても、宇都宮が50万人を超えていますし、それから、前橋が34万人くらいということで、明治になって同じくらいのレベルから人口が増え続けてきたのに、横浜と水戸はあまり変わらなかったのがこのような大きな差が出てきてしまって、悔しく、また、人口問題というのは本当に大事なことだというふうに感じております。

これから人口減少であります。人口を極力減らさないで、そして、魅力的なまちづくりをするということが必要なのかなと思っております。

先ほどから集中的にやったら良いのではないかなというような御意見も出ていますし、差別化が必要であるということもあって、八方美人ではなくて、水戸はどんな魅力があるのか、その魅力を磨き上げて、よそで水戸はこういうまちですねと言われるようなまちづくりが必要だと思います。また、我々がよそで説明する時も、水戸はこういうまちなのですよと、とっても魅力があるのですよというような説明ができるような、今まで蓄積したいろいろな資産を磨き上げて、資産というのは物だけではありませんで、考え方や行動等もそうだと思いますが、磨き上げて、他の市町村とどこが違うのだ、魅力があるものがこんなにたくさんあるのだということ発信する必要があるのかなと思っております。

平均的なまちでは魅力は出てこないと感じておりますので、これから実施する内容が問題になってくると思いますが、実施の内容などもそのような形でやられるとどうなのかなと感じております。

【座長】八方美人や平均的なところということではなくて、他との違いというのを意識して発信をぜひという御意見かと思えます。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】先ほど、お話のありました9ページの推進体制と進行管理の件ですが、第一印象として、非常に大事だなと思うのですが、この時点では計画なのでやむを得ないのかもしれないのですが、このページが非常にあっさりとしているのが少し残念な感じがします。

これからPDCAを回していくのですが、現段階はPlanということで、これからこれに着手して進めていくという段階でDoに入っていくのですが、これまでも御意見がありましたように、本気度が問われてくると思うので、誰が本気になって、大汗をかいて、先頭に立って走っていくのかというところがきっと大事になってくるのだらうと思うのです。この計画はそもそも市の存亡というところにも関わる話ですから、恐らく、水戸市がまずは本気度を出さないといけないのかなと思うのです。ぜひこの計画を発表される時には、市民の皆様が、今回の水戸市はさすがに本気だぞ、違ふぞということを感じさせるような何か本気度を出していただけたら良いなと思うのです。そういうところがないと、どうしても大きなものの最初は動き出さないような気がするのです。

そして、次のCheckについて先ほどいろいろ御意見がありました。私もそう思うのですが、いわゆる内輪での評価をまずたたき台としてつくることが多いと思うのですが、よくありがちなのが、現状肯定的なものであったり、あるいは、やっていく中で手段が目的化してしまったりとかということがありがちなので、そこをよき気をつけていただいて、庁内での第一段階のたたき台での検証の段階でもですが、たたき合いぐらいのことをなさっていただきたいと思えます。当然、組織なのでたたき合いをすると、たたけばたたかれるということがあるので、どうしても皆さん手を緩めてしまいがちだと思うのですが、そこは緩めずに、ぜひシビアにやっていただいて、その結果を我々の有識者会議にまた出していただくということになるのだと思うので、ぜひそれをお願いしたいと思えます。

【座長】推進体制についてですが、引っ張るのが誰かというところで、まず行政になるとすれば、いかに本気度を示すかというところがまず問われるだろうということと、実際に検証していく際も、これまでの内部評価のイメージではなく、手を緩めずやっていただきたいということかと思えます。

\_\_\_\_委員どうぞ。



あと、我々が力を発揮できるのは災害時です。風水害、地震等で避難所をどこの地域も指定いただいていますので、災害時、避難者の皆さん方の安全や食事を確保するために、市と一緒に食糧の備蓄などを今やっていますので、災害時の支援を地域の皆さんと一緒に努力をしていきたいと思えます。

そして、水戸市に住んでみたいと選ばれる地域づくりに我々も貢献していきたいと思っています。

【座長】特に、安全・安心という点からも努力、協力をしたいという御意見でございます。そのことが、人が住みやすい、人が増えるというところにつながっていくのではないかと御指摘かと思えます。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】私たち\_\_\_\_\_は、20歳から45歳まで、青年経済人の方々がおります。ちょうどこの若い世代というところで、平成31年度の達成すべき数値目標を設定しておりますので、今年度を含め5年間、若者に向けてどう伝えていくかという部分で、意見交換の場をどんどん取り入れていただいて、5年後に向かっていければなと思っております。

若い世代は、いろいろな悩みや今後の不安要素がたくさんある世代ですので、ぜひ取り入れていただければなと思えます。

【座長】\_\_\_\_\_として、もっと意見交換をというような要望でございます。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】先ほど、\_\_\_\_委員からホーリーホックの話が出ました。それから、最近、バスケットチームのロボッツが水戸にも本拠地を置きたいというような話があります。商工会議所の青年部は、水戸にマラソン大会がないということで、5年前からマラソンをやって、今回、水戸市が中心になりまして、水戸黄門漫遊マラソンという形で実施されます。

休日に、今日はプロバスケットを見に行こうとか、サッカーを見に行こうとか、そういうスポーツを若い人たちが観戦したりする魅力というものもあるのです。そういうスポーツ面の充実などもやっても良いのではないのでしょうか。

水戸は教育のまち、水戸学というのが昔からありまして、水戸学という教育面で、スポーツなども教育の1つですし、若い人たちがはつらつと生活するのに必要なのかなと思えます。

それから、先ほど、観梅客65万人を目標に上げているということですが、去年の梅まつり期間中とその期間外の商店の売上げの調査をしたところ、65%が変化なしという結果が出ました。旅館業とか土産関係とか飲食は60%から70%伸びているという結果です。一般の商店がそういうイベント

の時に何か工夫をして、売上げを伸ばす必要があるのかなと思います。それから、まちの中心にも回遊してもらわないとなかなかビジネスにつながらないのかなというようなアンケートの結果が出まして、市民の努力というのも、ものすごく大事だということを感じました。

【座長】 スポーツの要素というのもこの戦略の中にもあるのはあるのですが、例えば、リーディングプログラムで文化芸術活動というものは強調されているのですが、スポーツみたいなことをもう一言入れるかどうかというようなところは可能かもしれないと思いますので、そういう提案があったということで、御検討いただければと思います。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】 先ほど、\_\_\_\_委員から、どうやって良いところを広げていくかというお話があったのですが、特に、今回は若い方々をどういうふうに入れていくかという話の中で、既存のメディアだけではなかなか難しいのではないかとはいえます。

その意味で言うと、このペーパーをこのまま出したとしても、明らかに若い人は読まなさそうではないですか。そうすると、若い人が読むのってどういうパターンなのということを考えなければならなくて、更に言うと、それを読んだ結果、例えば、SNSで「いいね」がたくさん押されるような中身ってどういうことですよという話があって、こちらでみんなにわーっと知らせるといよりは、自律的に広がっていくという話だと思いますので、ラインやツイッターやSNSで、「水戸の見た?」、「いいね」という話につながっていくようなしつらえにする工夫が必要かだと思います。

その中の1つで、先ほど\_\_\_\_委員や\_\_\_\_委員からもお話があったのですが、たくさん素材がありすぎて、何をみていいのか分からないというところがあるかと思っています。この時に、若い方が自分で優先順位を決められるということが重要かなと思っておりまして、もし可能であれば、ぜひ若い方々に、特に、リーディングプログラムの中で何を一番重要だ、やりたいと思っていच्छやるのか聞いていただく機会をつくっていただければよろしいのではないかと思います。さらに、それを、一度ではなく、繰り返して聞いていくようなしつらえが必要かと思っています。

若い方にとって、多分、誰かがどこかで決めた計画ではなくて、自分たちで選んだ、あるいは、自分たちで選ぶことができるということが非常に重要かなと思いますので、ぜひ推進の中でそういう手法を入れていただいて、若い方の中でPlan, Doがつながっていくようなしつらえをお考えいただければと思います。

【座長】 この戦略自体の知らせ方で、自律的なつながりで広まるようなことがということと、若者からの意見聴取の仕方で、情報がいっぱいあるとなか

なか大変なのですが、今のお話は特に、庁舎内からというイメージですかね。

【\_\_\_\_委員】 庁舎内とそれから外も。できれば優先順位を若い方に決めていただきたいと思います。

【座長】 何でもありではなく、優先順位を若い方に決めてもらうということでした。

他にいかがでしょうか。

では、私からも一言よろしいでしょうか。この「まち・ひと・しごと」の枠組み自体が、国がつくって、危機感は分かるのですが、その枠組みが自治体でやろうとしていることをかなり縛っているようなところがありまして、こういうつくりであるとか、行政主導がみたいなところは、水戸に限らず、どこもかなり強いものとなっているというところで、これどうまくいくのかなという疑問はそもそもあるわけです。そして、もう一段、実施していくに当たって、非常に大きな計画が5年間と出ていますが、実際、年度ごとに区切って、何からどうやるみたいなのは果たして考えられているのか。これからなのかみたいなのところがかなり気になりますので、この会議でこれから進行管理をみたいな話ではありますが、進行の管理には、行って、ここまで来ましたという漠然とした話ではなくて、例えば、今年度はこれをここまでやろうというふうな計画を持っています。それに対してどこまで行きましたというような見せ方を、この場にもぜひお願いをしていただきたいと思います。

その中で、ある意味、八方美人的にならずに、特に、どこでいくのだみたいな絞り込みがされることもあっても良いのではないかということが、この場での多くの方の意見でもあろうかと思えます。

それと併せて、本当に網羅的に出されているわけですが、それぞれの施策について、今までの水戸市がやってきた取組と量的・質的にどう変わるのという辺りがまだよく分からないといえれば分からないところですので、行政が一番中心となってということであれば、そこもそう遠くない時期にぜひこの会議にも説明をいただければと思います。

それから、それに付随して、どなたがということと関わるのですが、事業者という言葉が非常にたくさん出てくるわけです。冒頭にこれだけを出すと、そこに何かお金が流れるのかみたいなイメージも持たれかねないわけですが、実施主体で行政以外の方とどれぐらいまですり合わされて目標等の話が決まっているのというところが、ここまでの第四、五回の会議ではあまり良く見えなくて、それはこれからなんだというお話であると、かなり大変なことが出てくると思いますので、ぜひそこを早急に進めていただきたいということなのです。例えば、\_\_\_\_というのも出てきますが、私



は、今日、この場には\_\_\_\_代表として来ているわけでは決してございませんが、そのような話は\_\_\_\_内ではあまり聞いたことがないし、どうなのだろうなというところが大いに気になるところでございます。

あともう1つ、これも多くの方がおっしゃいましたが、住民、市民の方との関係です。地方創生ということ自体、言葉としてはあるのだけれども、人口が減ってきて、それをどう食い止めるのかということが課題の政策パッケージなのだというイメージまでは伝わっているかもしれませんが、では一体何をどうやることなのかということについては、ほとんど誰も知らないというような状況かと思えます。

そこで、1点目の本気度みたいなのところも関わるわけですが、ここをこうすべきだというふうにもここでも議論されて、水戸市としては計画はつくったのだというところがどう広まっていくのかということの作戦も、この委員の皆様も決して人任せではないと思えますので、ぜひこの場でも協議させていただくとか、提案させてもらうような場はないかみたいなことが、この直後のステップとして必要なのではないかなと思っているところではあります。

今のはまとめというわけではなくて、私自身の考えということで聞いていただければと思います。

もう時間もというところはありますが、ぜひという方がいらっしゃればと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、これからということで、今期のこの会議はあと1回を予定しているわけですが、今、様々なお立場、観点からたくさんの意見が寄せられました。

それを、羅列というよりは、ある程度まとめの形で意見書として取りまとめたいと考えております。

これから日程の説明がございしますが、1週間後、市長に意見書を提出するという予定で話を進めておりますので、その文案取りまとめについては、座長と事務方にお任せいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

それでは、そのようにさせていただきたいと思えます。

ということで、その意見を取りまとめたものをここで改めて確認ははしませんが、市長に提出をするということを次回の会議の議題とするということでございます。

では、その他の話と半分重なっていますが、スケジュールなどを含めて、事務局からその他ということで説明をお願いいたします。

(次回のスケジュールを事務局から説明)

【座長】このような形で市長に意見書を提出するということでもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

それでは、1週間後になりますが、次回、来週2月9日火曜日、午前10時に開催いたしますので、よろしく願いいたします。

本日予定しておりました議事は全て終了いたしました。

【執行機関】本日は、様々な御意見等を頂きまして、誠にありがとうございました。

また、シェイクアウト訓練にも御参加いただきまして、重ねてお礼申し上げます。

それでは、以上をもちまして、第4回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。